

# 事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

## I 会社の現況に関する事項

### 1 事業の経過およびその成果

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、当社は南・北リアス線において営業区間の 3 分の 2 の区間が運行不能になるなど、甚大な被害を受けました。復旧にかかる経費につきましては、国や県、沿線市町村の財政支援により平成 23 年 11 月から復旧工事に着手し、24 年 4 月 1 日には北リアス線の田野畑・陸中野田駅間の運行を再開することができました。さらに昨年中にすべての不通区間で復旧工事に着手し、本年 4 月 3 日には南リアス線の盛・吉浜駅間の運行を再開しました。また岩手県のご配慮により、クウェート国からの支援を活用し新型車両 3 両を南リアス線に導入しています。

当 24 年度も過半の運賃収入が途絶えている中、運営面の抜本的見直しを図り、新たなる戦略のもとで、社員一丸となって収支改善に取り組んでまいりました。

24 年度の営業実績は、輸送人員では一部運行再開により前年の 31% 増 388 千人、運賃収入で 61.5% 増 157,862 千円と厳しい状況ですが、全国各地からの温かい支援によりヘッドマーク・ラッピング車体等の広告料・商標使用料及び他社との合同きっぷ販売などの運輸雑収で前年の 60.4% 増。旅行業は新規企画の震災学習列車の効果で伸びましたが、物産は新商品開発を進めたものの復興祈願被災レール販売の実績減で落ち込みました。関連業務の収入が前年の 24.6% 減、経常経費は経費削減を図りましたが、動力費・固定資産税の増加より 1.9% 増。こうした結果、経常損失は▲137,652 千円と前年の 18.8% 損失減となり、前年度震災関連損失補助金により、当期純利益が 22,739 千円となりました。

これらの結果、当期の概況は次のとおりです。

表 1 経常収入・経常利益の状況

(単位：千円)

項目	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	前年増減	同前年比	計画増減	同計画比
運輸収入	97,718	117,000	157,862	60,144	161.5%	40,862	134.9%
運輸雑収	36,533	12,000	58,615	22,082	160.4%	46,615	488.5%
関連事業収入	168,745	94,300	127,167	-41,578	75.4%	32,867	134.9%
経常収入	302,996	223,300	343,643	40,647	113.4%	120,343	153.9%
経常費用	472,477	448,993	481,295	8,818	101.9%	32,302	107.2%
経常損益	-169,481	-225,693	-137,652	-31,829	81.2%	-88,041	61.0%
特別利益	185,161	176,079	1,653,330	1,468,169	892.9%	1,477,251	939.0%
特別損失	59,248	12,000	1,488,668	1,429,420	251.3%	1,476,668	1,240.6%
当期利益	-45,633	-63,814	22,739	68,372	149.8%	86,553	135.6%

## 2 営業の概況およびその成果

表2 輸送実績

(単位：人／千円※税抜)

項目	当期実績	前年実績	増減
乗車人員	388,638	296,586	92,052
(久慈―陸中野田)	(258,519)	(184,996)	(73,523)
(宮古―小本)	(130,119)	(111,590)	(18,529)
運輸収入	157,862	97,718	60,144
(一般個札)	(76,429)	(55,274)	(21,155)
(定期券)	(44,764)	(36,475)	(8,289)
(地元団体)	(9,266)	(1,273)	(7,993)
(観光団体)	(27,403)	(4,696)	(22,707)

### ■安全安定輸送への取組

- ・施設＝線路、電路保守工事  
 (マクラギ交換、トンネル内レール締結装置交換、分岐器交換、信号通信検修等)  
 橋りょう排水管改修工事  
 南リアス線盛～吉浜駅間沿線刈払い工事(運転再開準備)  
 鉄道トンネル内の重量構造物の緊急点検  
 高架橋の防音壁及び側壁等の緊急点検
- ・車両＝レトロ調車両の自動列車停止装置改良(2両)  
 南リアス線に新車両3両導入
- ・南北リアス線運行部合同での地震、津波を想定した実車訓練
- ・「防災週間」及び当社「安全を考える日」の非常呼集訓練

### ■支援の状況

- ・安全輸送事業費補助及び会社負担設備投資補助 19,753千円
- ・設備維持補助 123,232千円
- ・新車両購入補助 480,000千円
- ・前年度震災関連損失補助 43,568千円
- ・災害復旧事業費補助 986,689千円

### ■鉄道事業営業概況

(利便性確保)

- ・4月1日に田野畑・陸中野田駅間で運転再開
- ・3月16日に列車時刻改正  
 ※宮古・小本駅間14本、田野畑・久慈駅間20本(土休日18本)、普代・久慈駅間1本
- ・岩手県北自動車(株)が小本・田野畑駅間の連絡臨時バス、岩手県交通(株)が盛・釜石駅間の臨時バスを運行

(企画列車運行)

- ・ JRリゾートうみねこの当社線直通運転 (4~9月)
- ・ 当社レトロ列車等の JR 八戸線直通運転 (7~9月)
- ・ ランチ列車、おやつ列車運転 (7~11月)
- ・ こたつ列車を2年ぶりに定期運転再開
- ・ 久慈~田野畑間で震災学習列車を運転 (受注型企画列車: 27件 1,442名乗車)

(各種イベント等)

- ・ 田野畑・陸中野田駅間運転再開セレモニー (4月: 田野畑駅)
- ・ 宮古夢レールフェスタ (5月、12月: 宮古駅)
- ・ さんてつジオラマカフェとの連携による、イルミネーション/キャンドルナイト・鉄道ミニフェスタ (12月、2月: 釜石駅)
- ・ 当社、JR 東日本、岩手開発鉄道共催の3鉄まつり (10月: 盛駅)
- ・ 秋のさんてつ祭り (11月: 久慈駅及び北リアス線運行部車両基地)

(外部団体とのコラボレーション企画等)

- ・ 他の鉄道会社等と連携しての企画きっぷ企画販売  
相模鉄道、西武鉄道、JR 北海道、智頭急行、富士急行、小学館 (販売高 4,930千円)
- ・ てをつな号、株式会社デラのラッピング列車運行
- ・ ヘッドマークオーナー8社契約 (販売高 2,700千円)
- ・ ふれあい待合室と連携、盛、吉浜駅の留置車両を活用した団体貸切企画 (53件 694名)
- ・ 駅-1 グルメ第3弾発行による地域連携、観光資源開拓、観光客への情報発信
- ・ NHK 朝の連続テレビ小説ロケのための臨時貸切列車運行 (10~3月)

■ 関連事業営業概況

(物産企画)

- ・ 主力商品および部門別販売状況  
マクラギプレートオーナー: 7,936千円  
オンラインショップ: 10,596千円  
イベントや百貨店、鉄道他社の代行販売: 3,774千円  
夏冬ギフト (お中元、お歳暮): 8,754千円 (昨年度 3,600千円)
- ・ 新商品開発  
三鉄龍泉洞の水、清酒「鉄の道」、鉄道ダンシ入社セット (4月)  
さんてつうた CD (5月) 各種缶バッジ (6月) 鉄道ダンシ着任セット (8月)  
三陸鉄道沿線カップ酒の旅 (11月) 鉄道ダンシ CD 朗読セット (12月)

(旅行業)

- ・ 着地団体: 被災地フロントライン研修 (158団体 3,593名)
- ・ 一般団体: 岩手県漁港漁村協会、宮古信用金庫エレガンスグアム等
- ・ 教育団体: 春季中学校修学旅行 (3校 193名)、普代中学校神楽同好会仙台公演、岩泉町中高生米国短期留学事業等
- ・ 募集团体: 岩手県立美術館とのコラボによるルーヴル美術館巡回展バスツアー、恐山参拝団等

### 3 対処すべき課題 復興に向けて

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、平成 26 年 4 月の全線運転再開を目指し復旧 3 カ年計画を策定し、国等の支援を得て、平成 23 年 11 月 3 日より災害復旧工事を開始しました。平成 24 年 4 月には田野畑・陸中野田駅間、平成 25 年 4 月盛・吉浜駅間の運転再開となりました。今後とも来年 4 月に全線運行再開を予定している復旧工事に主力を置くこととします。

私たちは、三陸鉄道の復旧が三陸沿岸地域の明日への希望であることを信じ、そのため気力を振り絞り、社員一丸となって再建に向け取り組んでまいります。

三陸鉄道は、「地域の生活路線として住民の足を確保する」・「観光路線として全国各地からおいでいただき地域の観光振興に寄与する」の 2 本柱に、平成 26 年度以降の全線復旧後の「上下分離」方式の考え方にに基づき収支均衡を実現するために、震災から復興に向かう地域の歩みを先取りし、沿線の復興計画と整合を図りながら利用促進戦略を含め、新しい時代を切り開く三陸鉄道の経営戦略を構築し会社の維持存続を目指します。

### 4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 622,985 千円であり、その内容は次のとおりです。

- ・安全輸送事業費補助及び会社負担設備投資補助 19,753 千円
- ・設備維持補助 123,232 千円
- ・新車両購入補助 480,000 千円

なお、当期申請し 25 年度繰越実施する設備投資の内容は次のとおりです。

- ・緊急老朽化対策 64,000 千円
  - ※橋りょう改修（腐食した手摺交換）北リアス線 3 橋りょう
  - ※トンネル改修（漏水対策工）北リアス線 7 トンネル
- ・地域公共交通バリア解消促進 94,890 千円
  - ※小本駅ホームエレベータ新設にかかる詳細設計

### 5 資金調達の状況

東日本大震災による運輸収入の大幅な減少により、経営が圧迫されるとともに復旧関係の各種事業を進めていることから、資金調達として岩手県より短期借入を行うこととしました。

平成 24 年度借入額 700,000 千円（平成 25 年 3 月 29 日岩手県に返済）

但し、岩手県への返済資金として岩手銀行より 700,000 千円を調達しました。

6 直前3事業年度の財産および損益の状況

(単位：千円/税抜)

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度
	(第29期)	(第30期)	(第31期)	(第32期) ※当事業年度
営業収益	423,532千円	425,580千円	249,527千円	306,732千円
当期純利益	22,349千円	△17,058千円	△45,633千円	22,739千円
1株当り当期純利益	744円	△568円	△1,521円	757円
総資産合計	632,085千円	615,281千円	1,540,049千円	4,672,552千円

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- ・鉄道事業法による第1種鉄道事業およびこれに付帯関連する事業
- ・旅行業法による第2種旅行業
- ・物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町4番地
事業所 ・ 事業本部	同上
宮古駅	同上
施設管理部	久慈市川崎町10番20号
・ 北リアス線運行部	久慈市川崎町10番20号
久慈駅	久慈市中央3丁目38番2号
・ 南リアス線運行部	大船渡市盛町馬場4番4号
釜石駅	釜石市鈴子町22番5号
盛駅	大船渡市盛町字東町裏16番

※市町村等への業務委託駅 陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・小本駅  
(休業駅：島越駅・田老駅・三陸駅・綾里駅)

9 従業員の状況

区 分	従業員数	平均年齢	平均勤続年数
男 子	53名	44.8才	22年3ヶ月
女 子	0名	—	—
計	53名	44.8才	22年3ヶ月

(注) この外、臨時雇用従業員が17名、及び(独)鉄道運輸施設整備機構より1名、いわて復興応援隊より1名受入れ、IGRいわて銀河鉄道に期間派遣の一時退職者が5名おります。

## 10 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県および岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.3% (22,600株)の出資を受けております。

※岩手県48% (14,400株) 沿線市町村19.3% (5,800株) 沿線外市町村8% (2,400株)  
当社は、岩手県知事が会長に就任しております。

### II 株式に関する事項

1 会社が発行する株式の総数 100,000株

2 発行済株式の総数 30,000株

3 当事業年度末の株主 46名

#### 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	48.0%
宮古市	1,350株	4.5%
(株)岩手銀行	1,200株	4.0%
大船渡市	1,150株	3.8%
新日鐵住金(株)	1,000株	3.3%
東北電力(株)	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.2%
釜石市	650株	2.2%

### III 会社役員に関する事項

#### 1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本正徳	宮古市長
取締役副会長	戸田公明	大船渡市長
取締役副会長	山内隆文	久慈市長
取締役副会長	野田武則	釜石市長
代表取締役社長	望月正彦	
取締役	伊達勝身	岩泉町長
取締役	上机莞治	田野畑村長
取締役	梶屋伸夫	普代村長
取締役	小田祐士	野田村長
取締役	須藤 薫	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	坂下政幸	事業本部長
監査役	田口幸雄	(株)岩手銀行 常務取締役
監査役	宮 勉	(株)北日本銀行 代表取締役専務

#### 2 取締役または監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,100 千円

監査役の報酬はありません。

### IV 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。